

人の可能性を信じる仕事

吉田 悦子さん

会社名：よしだ社会保険労務士事務所

役 職：代表

資 格：特定社会保険労務士、産業カウンセラー



【受講のきっかけ】

私は、困っている人の助けになりたいという思いから社会保険労務士の資格を取得し、念願の労働相談の仕事に就きました。しかし、実際に相談を受けてみると、そこには必ずと言ってよいほど法律では解決のできない「感情」の問題が根底にありました。ハラスメント問題で会社から解決金が支払われても、不当な雇止めを回避して労働契約が更新されることとなっても、相談者の心の中に生まれた恐怖心や怒り、悲しみまでも拭い去ることはできなかったのです。そこで改めてこちらのケアの重要性を実感し、産業カウンセラー養成講座を受講することにしました。

しかし、私には人間関係で悩み2年ほど引きこもりになった時期があり、どちらかと言えば人づきあいが苦手な方です。相手の些細な表情の変化で「嫌われたのではないか」とたまらなく不安になり、時には誰とも話したくない、とさえ思うほど落ち込むこともあります。そんな自分がなぜ、わざわざ人と関わる仕事をしたがるのだろうか、と、常々疑問に思っていました。

この疑問は、養成講座の中で「カウンセラーの基本的態度」の一つとして必要とされる「自己一致」を学ぶことにより、答えが見つかりました。カウンセラー自身があるままの自分で接しているということが伝わらなければ、クライアントとの信頼関係を築くことはできません。

なんだ、こんなダメな自分のままでいいんだ、臆病で弱い自分も人間らしくて味があるじゃないか。辛い気持ちがわかるからこそ、人の支援ができるのではないか。

養成講座は、他の受講生達の多様な考えや感情に触れながら内省を繰り返し、人のところが形作られる理論を学び、カウンセラーとなるためにまず「自分自身と向き合う」という大切な時間を私にくれたのでした。

【資格取得後の活動状況】

養成講座で学んだ傾聴のスキルを労働相談の仕事に活かすとともに、産業カウンセラーの資格を取得したことで、企業内カウンセラーの仕事にも就くことができました。キャリアへの支援も非常に重要となるため、今後はキャリアコンサルタントの資格取得にも取り組んでいきたいと考えています。

カウンセリングは、クライアントの体験や感情を、あたかもその人であるかのように体感し、理解することで、その人自身もまだ気づいていない奥深く眠る可能性を引き出すことができます。どんなに困った行動をする人でもそこには必ず何かしらの理由があり、どんなに失敗をしても人はそこから学び、立ち直ることができます。

人の可能性を信じるこの仕事に就けることを、私は心から誇りに思っています。かつて私が人間関係に悩み、誰にも相談できず、この世でひとりぼっちのような気持ちを抱えていたとき、私は常に「誰かに助けてほしい。わかってほしい」と考えていました。クライアントにとっても、私がその「誰か」になれるような一番の味方であると信じてもらえるような、そんなカウンセラーになれるよう、今後も努力していきたいと思えます。